

等ハ不日竣工するに付修繕隊は續いて大坂府の寶物に着手する筈なり

(明治三十三年六月二十五日『読売新聞』)

○大坂府下の國寶 同府下の古社寺たる四天王寺、泉穴師神社、觀心寺、河合寺、金剛寺、道明寺、安福寺の什寶にして國寶となりし神體佛像の修繕ハ内務省の古社寺保存計畫調査囑托委員新納忠之助氏主任となり各社社に出張して美術學校生徒美術院の技師等を指揮し春來修覆に着手しこの程全く終了したりと

(明治三十三年十一月二十四日同紙)

5 依囑制作および精芸会

本校の依囑製作事業は明治三十一年の美術學校騒動の折りに反岡倉派が批判の鋒先を向けた問題点の一つであった。本校がその批判を容れて事業を廃止したか否かについては正式記録が無いが、明治三十一、二年報に宝物修繕に関する記事以外は何ら記載されていないところをみると、一時事業を中止したことが考えられる。ただし、その間は精芸会(本書第一卷395頁参照)が盛んに依囑製作を行なった。これについては大村西崖が次のように記している。

○美術通信 △△生

〔上略〕△精藝會といへるは美術學校卒業生の組織にかゝり、一時九鬼〔隆一〕の後押とか鹿嶋〔清兵衛か〕が金主なりとか、種々様々の取沙汰ありたれど、其後發起者等の盡力にて此程は數多の依囑事業あり、いま二三を挙げれば、三嶋東宮侍講の銅像は黒岩淡齋氏〔哉〕の塑造中、築地本願寺の建築附屬彫刻は契約済み、京都北垣男爵の銅像原型は白井雨山氏

將に着手せんとし、某家の金屏風は結城素明、山崎勇馬二氏の稿中に係り、某所の馬像大紀念碑圖案は今正に懸賞募集せられ大阪に建てらるべき楠公騎馬像木型は既に修理工事に取掛れり、其他の申込み亦尠なからずと聞く、會員たるもの須らく努力すべし

(明治三十二年二月十四日『時事新報』)

明治三十三年度に至り、本校の依囑製作事業の件数は再び増加する。その発端は東宮御成婚奉祝献納品の製作依頼にあつたようである。本年度の製作品の担当者は次のとおりである。

菊藤掛物(東宮御成婚奉祝献納品) 設計久保田鼎、製作荒木寛敵、軸製作向井勝幸

御慶事賀表(同) 担当者未詳

桐鳳凰掛物(同) 製作川端玉章

龍銀製麒麟置物(同) 製作海野勝珉

藤原時代木彫舎人像(同) 意匠考案通信省郵務課長樋畑正太郎、彫刻

高村光雲

鍛鉄花瓶(同) 製作主任海野勝珉、彫金担任向井勝幸、鍛金担任平田

宗幸、図案川端玉章

銅製鶴(同、沼津御用邸用) 担当者未詳

吉田健康胸像(長崎市諏訪公園へ設置) 铸造桜岡三四郎

関連事項

① 職員任免その他

明治三十三年
一月九日

囑託大村西崖は東洋美術史講義(從來今泉雄作担当)